

「おいしい」の言語と文化 研究プロジェクト

専門的な関心は、アカデミアを超えた問いと結びつき得るのか？

参加者募集

東京外国語大学とキッコーマンおいしさ未来研究センターは、「おいしさ」という概念を対象に、言語表現や食文化に着目した研究を行います。

「おいしさ」は個人の好みの問題にとどまらず、言葉の使われ方や慣習、社会的文脈の中で人々に共有・評価されてきました。本プロジェクトは、そうした「おいしさ」をめぐる仕組みや背景を明らかにすることを目的としています。研究成果は、キッコーマンおいしさ未来研究センターの研究者と共有し、企業における「おいしさ」の研究や実践を捉え直すための材料として活用します。

研究
テーマ

「おいしい」という感覚を共有・表現する際の言語・文化的特徴
自身の専門分野・研究関心に基づき、各自で問いを設定してください。

対象	総合国際学研究科 博士（前期及び後期）課程に所属する学生
プロジェクト期間 [研究期間]	2026年5月（採択後）～2026年9月末まで
応募と審査	研究プロポーザル（A4・3枚以内）を提出してください。審査方法は、本学およびキッコーマン株式会社から構成される審査委員会により、書類審査（第一次審査）および口頭審査（最終審査）を実施します。
応募〆切	2026年5月12日 [火]
採択課題数	4件
研究奨励費	10万円



募集要項と提出方法はこちら

<https://www.tufs.ac.jp/trend/news/item-056034.html>

研究報告会の実施
最優秀課題の決定

プロジェクト期間の終了後、研究報告会を2026年10月に実施します。
発表課題の中から、研究を継続することが期待される課題を1件採択し、「東京外国語大学キッコーマンおいしさ未来賞」を授与します。受賞課題には、研究の継続を支援するための研究費50万円を支給するほか、副賞としてキッコーマン製品を贈呈します。



TReND

お問い合わせ

学際研究共創センター

mail: 2-trend@tufs.ac.jp

「おいしい」の言語と文化研究プロジェクト

参加者募集

主な研究観点 [例]	<ul style="list-style-type: none">● 各国・各地域における「おいしさ」を表す語彙・比喻・表現の特徴● 食の経験は、どのように言語化・共有され、意味づけられるのか● 商品説明、メディア、専門家の語りなど、さまざまな場面での「おいしい」という評価は、どのような機能を果たしているのか <p>※分野・研究方法は問いません（言語学、文化人類学、社会学、地域研究等）</p>
応募と審査	研究プロポーザル（A4・3枚以内）を提出してください。審査方法は、本学およびキッコーマン株式会社から構成される審査委員会により、書類審査（第一次審査）および口頭審査（最終審査）を実施します。
応募〆切	2026年5月12日 [火]
採択課題数	4件

この研究に採択されると？

1

研究を後押しする 奨励費（10万円）

採択された4件には、研究奨励費10万円が支給され、調査・資料収集や研究の立ち上げに活用できます。さらに成果発表会において、受賞課題1件には研究費50万円と副賞（キッコーマン製品）が贈呈されます。

2

プロジェクトの 伴走支援

採択された研究を進める上では、学際研究共創センター（TReND）の伴走支援が得られます。教員・URAのサポートを受けながら、研究計画の設計から成果のまとめ・発信まで、研究を構想し動かす力を、実践を通じて磨くことができます。

3

企業へ 成果を届ける 発表の場

研究成果を企業の方々に共有・発表する機会が得られます。同僚や学会内とは異なる視点を持つ相手との対話を通じて、研究が社会からどのような期待を寄せられているのかを学ぶ機会が得られます。専門外の相手に研究の視点を伝える過程で、言葉の選び方や説明の仕方（翻訳力）を学べます。

4

異分野の知と 交差し、視野と 言葉が広がる

企業の実践（分析・マーケティング等）に触れることで、人文学の研究を異なる枠組みから捉え直す契機になります。自分の研究力を、専門的学術研究を超えて広げるヒントやきっかけが得られます。

5

実社会での 評価につながる チャンス

優れた研究として表彰される枠組みがあり、成果を客観的な実績として示しやすい点も特長です。研究の到達点を外部にも伝わる形で提示でき、自分の研究が社会に伝わることを実感し、今後の研究や進路を考えるための材料とすることができます。



TReND

お問い合わせ

学際研究共創センター

mail: 2-trend@tufs.ac.jp